



録画配信はこちら

一般質問の意義について

Q しっかり受け止め対処を

A 情報共有だけでなく対応検討も行う

答 (副町長)
議会における一般質問ならびに各委員会等での答弁については、各所属において情報共有するだけでなく、今後の対応についても検討している。

問
前回にも質問をしたが、一般質問の意義について再度質問をする。行政は、出来ることは「する」とか、行政もしっかりと受け止め対処するようにして欲しい。もっともらしい答弁を繰り返すだけで、議会の一般質問が終われば何の報告もないのが現状である。一回生議員なので分からないが、ずっとこんな感じであるなら情けない限りであると言わざるを得ない。こちらも住民さんの意見を聞き、どうすれば良くなるのか、住民さんは何を望んでおられるのかを考えると、質問している訳であるので、せめて出来るのなら「こうしたら出来る」とか「予算の関係上今は無理だ」とか説明をして欲しい。そうでなければ住民さんに「どうなっているのか」と聞かれても答えようがないのが現状である。

また、検討した結果については、各所属において進捗管理を行い、必要な取り組みを行うようにしている。議員への報告については、ご指摘において感じられているような点がないよう、今後においても、議員と丁寧なコミュニケーションを図ることを徹底する。

問 職員の引き継ぎについて尋ねる。

答 (副町長)
4月1日付けの人事異動については、例年、3月下旬に発表しており、異動対象となった職員は、後任の職員に業務内容を引き継ぐ必要がある。この事務引き継ぎについては、3月までの担当者が引継書を作成し、4月からの担当者へ引継書やマニュアル等に基づき直接説明し、4月からの業務に支障が出ないように行っている。



録画配信はこちら

有村町政について

Q 1期目の評価と2期目に向けた決意について

A 重要な任に当たりたいと出馬の意思を固めた

有村町政一期目の評価は

平成30年2月当時43歳という若さと、民間企業での経験を生かし、故郷の発展のために力を尽くしたいと、立候補され見事当選された。

早3年半が経過し、一期目を振り返り、選挙公約のなか、次の6つの分野においての自己評価について問う。

- ① 子ども子育てや教育環境整備
- ② 空き家対策・住環境の整備
- ③ 高齢者を敬う福祉環境整備
- ④ 国道8号線・地域交通インフラ基盤の整備
- ⑤ 経済活動、商工業、農業政策の活性化
- ⑥ 自治会活動・地域コミュニティ施策の推進

答 (町長)
① 長年の悲願であった、愛知中学校の大規模増改築工事に着手した。全3か年の工事を予定しており、7月には生徒たちの新たな学び舎が完成し、2学期から新教室棟で、ICT機器を活用した新たな学習環境での授業を開始した。

引き続き工事を進め、次代を担う子ども達がいつそう輝く、町の宝となる学校づくりに取り組み。

保育の充実については、幼稚園において一時預かり事業をスタートし、保育ニーズ等の多様化といった社会環境の変化への対応に向けた取り組みを進めている。

② 空き家対策について、官民双方の知見を生かすよう努め、さらなる利活用の推進に向け、空き家等改修補助制度を創設した。

防災システムの構築については、個別受信機をデジタル化による安定した放送受信を確保したことに加え、町ホームページのリニューアルや町公式LINEの構築など、情報媒体等の強化を図る。

③ 住民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組めるよう、健康元氣もりもり教室を中核としたプロジェクトを推進したほか、老人クラブ連合会やシルバー人材センターの主体的な活動の支援に加え、高齢者の活動の場となるグラウンドゴルフ場の料金体系の

統一を図った。

④ 長年の懸案であった国道8号の慢性的な渋滞緩和に向け、県への累次にわたる要望の結果、県道神郷彦根線の令和6年度の開通、そして、同年からの愛知川右岸道路の事業化および整備着工スケジュールの明示を引き出した。

全線存続で合意がなされた近江鉄道線、愛のりタクシーは、住民生活に欠かすことができない重要な移動手段であり、さらなる利便性の向上に向け取り組む。

⑤ コロナ禍による地域経済の低迷が課題となるなか、町商工会との連携によるエール商品券事業や、ペイペイを活用したキャッシュバックキャンペーン事業の実施に加え、町独自で町内事業者向けの各種補助制度を設け、経営力強化、事業継続の支援に取り組んだ。

農業政策については、意欲のある担い手への農業機械等の導入やスマート農業の促進を目指す経営体への支援をスタートした。

⑥ 各自治体が元気に輝くことが、町全体の活力の向上につながるから、コロナ禍における活動事例の紹介や自治会活動再開に向けた補助制度の創設に加え、令和2年度は各区長と、今年度は自治会ミーティングと題して懇談の場を重ねた。引き続き、信頼関係をいっそう強固なものとしていくための協働のまちづくりを推進していく。

二期目に向けての決意は

問 これまでの自己評価も踏まえ、二期目に向けての決意について問う。

答 (町長)
地域経済や学力向上への取り組み、歴史文化や新たな魅力に輝きを持たせるまちづくり。皆様と共に、愛着と誇りにつながる、明るく気概あふれるまちづくりに邁進する。

来年2月に行われる町長選挙には、固い決意をもって、引き続きこの重要な任に当たらせていただきたいと出馬の意思を固めた。